

実施報告書

テーマ「本と創造」「色彩」

1. 確認事項等

施設番号	66-1309		
施設名	美希保育園北参道		
施設所在地	渋谷区千駄ヶ谷3-21-5		
法人名	社会福祉法人美希福祉会		
活動期間	令和 6 年 6 月 から 令和 7 年 3 月		
活動内容の公表	☒	活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。	
		公表したホームページ等のURL	https://miki-kitasando.com

2. 活動報告（注1）

番号	1					
テーマ	「本と創造」「色彩」					
実施回数・期間 (注2)	合計7回（内訳：9月2回、10月1回、1月1回、2月2回、3月1回） / 令和6年7月から令和7年3月まで					
対象クラス・ 対象人数	1	1 歳児クラス	2 歳児クラス	3 歳児クラス	4 歳児クラス	5 歳児クラス
	人	人	人	人	人	6 人
活動内容 (注3)	地域に触れ、興味を深めることを目的に、まずは図書館までの散歩に出掛けた。「どのように行くとよいか？」を子どもたちと話し合い、園のおさんぽマップや地図を見ながら、子ども自身が判断してルートを決定。カメラを使って「通った場所を忘れないようにチェックポイントにする」という子どものアイデアに基づき、6名それぞれが好きなポイントを見つけては写真を撮影した。 次は、園周辺の地図作りに向けた散策を実施。「どのようなルートで行くといいんだろう？」「何を持っていく？」などを話し合い、活動の見通しを立てながら進めた。 地図作りでは、前回の写真を確認したり、おさんぽマップのような形にしたいという声が上がったりと、子どもたちの中から多様な表現アイデアが出てきた。 以前に実施した地図作りの振り返りでは、折り紙を使用したことを覚えている子が多く、「園のそばのお花なら折り紙で作れる」と盛り上がり、再び散策に向かう活動へとつながった。 その後、折り紙を使って表現する活動を行い、また、思いきり色彩に触れる体験として「お花畑」の共同制作にも取り組んだ。 活動の集大成として、卒園を控えた時期に、子どもたちが関心を深めていた折り紙の世界をより広げる目的で、「折り紙会館」への卒園遠足を実施した。実際に作品に触れたり、観たりすることで、さらに新たな発見や創作の意欲が高まった。					

活動における チェックリスト	☒ グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。 ※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか 子どもたちに問い掛け、自分たちでどのようにしたいか、そのためにどうするかを考え、活動に繋げていけるように促した。それぞれ表現の仕方に対する意思表示が違ったので、各自が楽しめるような素材を用意した。制作活動や自由遊びの時間に折り紙に触れながら、「どのような色や形があると良いか？」と問い掛けながら楽しんだ
	☒ 活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。 ※記録をどのように行ったか 子どもたちの発言や活動の様子をデジカメやタブレットを用いて写真や映像にて記録した。
	☒ 乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。 ※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 前回の活動の余韻が感じられるくらい、図書館までの行き方やルート、どこを写真で撮ると、目印で分かりやすい等の意見が出ていたので取り入れるようにした。各自が表現したものを見せ合うだけでなく、合わせたりしていく。折り紙で表現することが最も盛り上がっていた。手足を含め、顔に絵の具がつくことをダイナミックに楽しみあえる素材とスペースを用意した。ただ作るだけでなく、誰かにプレゼントする形も取り入れ、さらに活動意欲が高まるようにした。
	☒ 記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。 ※振り返りの実施方法 子どもたちの午睡の時間、職員の事務時間を活用し、子どもたちの様子の共有を図る。撮影した写真や映像を見ながら、保育者同士で振り返りを行い、今後の活動の想定を話し合った。
	☒ 幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。 ※教諭や保護者等への共有方法 保護者に対しては、壁新聞による写真掲載等で探究活動の様子を周知した。
	☒ 次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。 ※継続的な実施のための工夫 子どもたちが撮った写真を見ることに非常に関心が高かった点を次の活動に活かすためにという視点で話し合う。子どもたちの声や様子、期待感をキャッチアップし次の活動の予定を想定する。折り紙や色についての子どもの反応や声が多かった点を共有し、折り紙のバリエーションや参考文献を豊かに環境を整えていく形を模索していく。活動に参加した職員だけでなく、子どもたちからの声、写真を通し、卒園までの保育園時間の過ごし方をより充実して満足してもらえるようにしていきたいと共有認識を深める。折り紙自体を作る工程を見られたことで色や形に対する話題が増えた。新しい折り方にも挑戦出来るように新しい参考文献も取り入れた。

（注１）活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

（注２）「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

（注３）「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1309
施設名	美希保育園北参道
施設所在地	渋谷区千駄ヶ谷3-21-5
法人名	社会福祉法人 美希福祉会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「本と創造」園内の図書環境を整え、本を読むことの楽しさ、学ぶことの楽しさや喜びを体験する。その中でコミュニケーションの面白さを学び、感情や考えを自分の言葉で表現する力を育む

「色彩」これまで色に関する活動や製作を行ってきたので、さらに色彩の世界を深く探っていく。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

「本と創造」

言葉の持つ力や与える影響を実体験し、豊かなコミュニケーションを目指すため

「色彩」

地域の特色として多くのアパレル会社があることを活用し色彩に関する学びを広げる

2. 活動スケジュール

年長児のみの時間を探究活動とすることにした。自由遊びの時間も個別に声を掛け、個々の関心や取り組みたい内容を聞き取っていった。年長児のみの活動は、7回だが、探究活動を継続していくという点で、無理なく活動を進めていける回数であった。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

まずは、絵本を導入に使用し、本棚の写真やカタログ、イラストを示した。とりわけ園が作成しているおさんぽマップに対する反応が想像以上に高く、写真を撮る、道中のシンボルマークを折り紙、ブロックで作る等の意見がどんどん出ていた。折り紙、多彩なペン、色鉛筆、カメラ等、模造紙、絵の具等を用意した

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

マップ作りが子どもたちの最も継続して取り組んだ内容となった。シンボルマークをどこにするか子どもたちそれぞれが自分でチョイスしていた。私も一緒という意見が聞かれないほど、自分たちで決めることが出来ていた。マップにペンで描くよりも、立体感を出したい思いが強く、ブロックや折り紙を実際の見た色で表現しようとする姿が見られた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等) 初めは保育者の問い掛けに対して、応えるのみの形が多かったが、質問形式を多く取り入れることで、子どもたちが自ら考えを伝えたり、その声に同調、さらなるアイデアを出す等、自然と活動に取り組めた。実際の地図を用意したことが子どもたちそれぞれの地図のイメージを出したりするきっかけとなっていた。

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。
(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちの追及心、疑問を疑問だけでなくすぐに行動に移し解決しようとする力、新たな気づきに対する素直な驚きや喜びの共有等、すくわく活動を通して、普段の保育とは違った子どもの成長に対する気づきを得られた。主体性という意味で、保育者側がより子どもたちの力、気づき、発見、声を拾うことが求められることを感じた。保育の醍醐味や子どもの力を改めて振り返られる機会を頂きました。